

平成十九年度「花のまわりみち」

定本 広文 選

入選句（天地人・秀逸）

「天位」

鬱金みな揃いの色でお出迎え

高田 和夫

（評）「まわりみち」の一つの魅力は、美しい桜にも毎年のように、代表する花があること。今年は鬱金（うこん）で、薄い黄白色が印象に残る。下五で生きた。

「地位」

まわりみちわたしが居ます鬱金です

楠山 東石子

（評）桜の花と言えば、サクラ色という薄紅色。それとは違う色をした鬱金の擬人化。異色の存在を主張する中七表現が、句のイメージを強めた。

「人位」

肩ふれて花に謝るまわりみち

谷口 敬誠

（評）応募作品が多かったのは、人出も多かったのではないか。人は触れると人間同士の会釈。当然のことながら花にも同じ。花を愛する人の心が温かい。

「秀逸」(五句)

個性派のウコンにスポットが当たる

川上 咲良

関山に囲まれ白いのが映える

藤井 幸子

鬱ひとつ抱いて鬱金とうまが合い

吉川 徳子

琴の音が桜咲いたと風で来る

外間 正枝

風に身を任せて誇る紅手毬

吉川 美佐子

佳作

(二十五句)

雪洞に映えて浮き立つ大手毬

松井 哲夫(福朗)

湧き上がるよう咲き込んでいる鬱金

井上 イツコ(イツヨ)

花の影確かめ杖の回り道

酒井 厚(水鳥)

立ち止まり花と会話のまわり道

岩崎 実知

泰然と鬱金ひときわ頼り甲斐

大河 遊歩

うこんのう字画なぞってまわりみち

正山 史明

思い川やさしさもらう雨あがり

稻生 小菊

山好きも四月は花のまわり道

松岡 登代子

恋う鬱金パワーを貰う足が伸び

小田 文子

通りゃんせ今年は鬱金まわり道

山根 ナツエ

見つめれば赤くうつむく紅手まり

萩原 秀行（一笑）

妻連れて花見る僕の平和主義

和田 彰夫（あきを）

花新たぐるりぐるりと回るたび

小川 博

それぞれの桜を観たく遠まわり

崎 洋苗

花の道笑顔連なる帯となり

富松 義典

八重桜二重まぶたの目をこらし

平野 浩

甥五歳ポーズ決まった花メール

大野 順子

廻り道鬱金の櫻十重二十重

松前 道英（竹林堂）

桜もえ距離もちぢまる夫婦仲

前田 美穂子

花の旅杖を頼りの三姉妹

末光 雅敏

十七年今年も逢えた花のみち

柿本 正廣（葵）

花の下私もきつと美人だわ

若見 洋子

楽しげに流れる曲で福祿寿

沖本 京子

夜桜はほんやり見てもすごいなあ

兒玉 えりか

いろいろなさくらがあるよいいにおい

しくま りほ

選者吟

定本
広文

美しい夢へ花の名調査中